

中学校特別の教科 道徳における

道徳的諸価値についての理解を深めるための指導方法の工夫

—自分との関わりで考える「8つの問い」を取り入れたワークシートの活用を通して—

広島市立口田中学校教諭 松田 一大

研究の要約

本研究は、道徳的諸価値についての理解を深めるための指導方法の工夫を考察したものである。文献研究から、道徳性を養うためには、生徒自身が様々な道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省することが求められていることが分かった。

そこで、これまでも主流とされてきた「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」において、リフレクションの方法論である「8つの問い」を援用したワークシートを作成して授業を行い、その有効性を検証した。

その結果、この「8つの問い」のワークシートの活用により、道徳的諸価値を自分との関わりで捉えて、自分自身を振り返っている生徒の姿が多く見られた。また、生徒が、ふだんの生活で捉えていた道徳的価値の意味を、更に明確にしていく姿が見られ、道徳的諸価値についての理解を深めることができたことから、その有効性を示すことができたと考えられる。

キーワード：道徳的諸価値についての理解、自分との関わり、「8つの問い」

I 問題の所在

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』（以下『解説』）では、道徳科の目標について、「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」¹⁾と示されている。道徳科においては、道徳的諸価値の理解を基にした学習を通して、道徳性を養うことが目標となる。

また、この道徳性を養うために行う道徳科における学習について、文部科学省は【図1】のように示している。

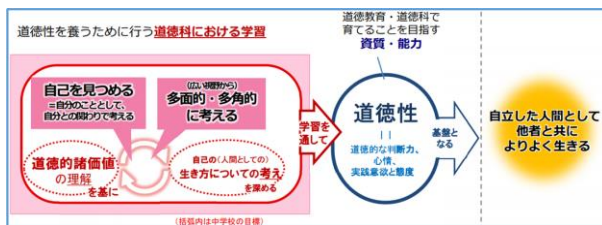


図1 道徳科における学習

道徳科における学習は「道徳的諸価値の理解」と「自己の（人間としての）生き方についての考え」といった要素により支えられている。

さらに、『解説』では、「自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うには、道徳的価値について理解する学習を欠くことはできない。」²⁾と「道徳的諸価値についての理解」の重要性が示されている。

自身の実践上の課題を振り返ってみると、これまで道徳科の授業において、自身は、アンケート結果を提示する導入や、ネームプレートで意思表示をする話し合い活動、思考ツールを用いたワークシートなどの工夫を行い、生徒の発言を引き出すことはできていたと感じる。そのことにより、多くの生徒は発表や話し合い活動を意欲的に行っていた。しかし、その発言の内容に注目

すると、現実離れした実現が難しいと思われるものであったり、望ましいと分かっている表面的な意見を終始言っていたりと、道徳的価値の理解を深められていない様子が見受けられた。

その原因として、ねらいとする道徳的価値について、生徒が自分との関わりの中で捉えないまま、発言や対話を繰り返すことで、切実感をもって道徳的価値を深めていくに至らなかったことが考えられる。自身も、生徒に道徳的価値の理解を自分との関わりで深めさせることに難しさを感じており、これまでの実践では有効な手立てを明らかにできていないため、この点について研究を進めていきたい。

II 研究の目的

中学校道徳科の授業において、生徒が道徳的諸価値についての理解を深めるための指導方法の工夫を探る。

III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 研究の構想
- 3 研究仮説及び検証の視点と方法
- 4 検証授業の計画と実施
- 5 検証授業の分析と考察

IV 研究の内容

1 研究主題に関する基礎的研究

(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるとは

『解説』では、道徳的価値について理解することについて、「道徳的価値の意味を捉えること、またその意味を明確にしていくこと」³⁾と示されている。また、「思春期にかかる中学生の発達の段階においては、ふだんの生活においては分

かっていると信じて疑わない様々な道徳的価値について、学校や家庭、地域社会における様々な体験、道徳科における教材との出会いやそれに基づく他者との対話などを手掛かりとして自己との関わりを問い直すことによって、そこから本当の理解が始まるのである。」²⁾と示されている。

これらのことから、本研究において、道徳的諸価値についての理解を深めるとは、「ふだんの生活で捉えていた道徳的価値の意味を、更に明確にしていくこと」と定義する。

(2) 道徳的諸価値についての理解を深める姿について

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』(以下『小学校解説』)では、道徳的価値の意義及びその大切さを理解することについて、「一つは、内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解することである。二つは、道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解することである。三つは、道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということをも前提として理解することである。道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。」⁴⁾と示されている。

また、道徳的価値を自分との関わりで捉えることで、「道徳的価値の理解と同時に自己理解を深めることになる。」⁴⁾と示されている。

これらのことから、本研究における、生徒が道徳的諸価値についての理解を深める姿を次のように分類した【資料1】。

生徒が、ふだんの生活で捉えていた道徳的価値の意味から、価値理解、人間理解、他者理解、自己理解の視点で考えが変容していれば、道徳的諸価値を自分との関わりで捉え、道徳的諸価値についての意味をさらに明確にしていると考える。

資料1 道徳的諸価値についての理解を深める姿

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 【価値理解】 | 自分にとってこんな意味がある。 |
| 【他者理解】 | 自分にはない、こんな考え方があるのか。 |
| 【人間理解】 | 大切だと分かっているけど、必ず実現できるわけではない弱さも自分にある。 |
| 【自己理解】 | 自分にはこんなよいところがある。
自分はこんな生き方をしたい。 |

(3) 道徳的諸価値についての理解を深めるために

『小学校解説』では、「道徳的価値の理解を図るには、児童一人一人がこれらの理解を自分との関わりで捉えることが重要である。」⁴⁾、自分との関わりとは、「これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせ」⁴⁾ることと示されている。

さらに『解説』では、「中学校段階では、小学校において育成される道徳性の基礎を踏まえ、(中略)様々な道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省することが求められる。」⁵⁾と示されている。

これらのことから、道徳的諸価値についての理解を深めるためには、生徒が自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら理解し、それに基づいて内省することが重要だと言える。

(4) 内省について

『広辞苑』によると、「内省」とは、「深く自己をかえりみること」である。

『解説』では、「道徳性」の要素として、「内省しつつ物事の本質を考える力」⁶⁾の重要性が示されている。また、「道徳科の授業においては、生徒一人一人がしっかりと課題に向き合い、教師や他の生徒との対話や討論なども行いつつ、内省し、熟慮し、自らの考えを深めていくプロセスが極めて重要である。」⁷⁾と示されている。

このことから、道徳科の授業において、生徒が道徳的諸価値の理解を深めていくためには、深く自己をかえりみる過程が重要だと言える。

(5) 深く自己をかえりみる過程について

コルトハーヘン（2020）は自身の行動に対する深い気づきを促す、「経験から学ぶ」リフレクションの方法を提唱している。人の行動には、思考レベルでの理由や背景があり、その背後には感情が潜み、それらを突き動かす原点に望みなどの本心があるのだと説明している【図2】。「水面の上に見える〈行動〉や〈思考〉にのみ焦点」を当てるのではなく、〈感情〉や〈望み〉という、ひとの行動を突き動かす、無意識のものにも焦点を当てることで、リフレクションの質が高まり、「本質的なことに気づく」ことができると述べている。

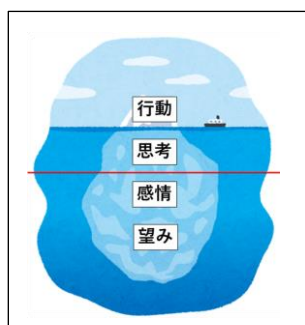


図2 コルトハーヘンの氷山モデル

その本質的な気づきを促すための仕掛けとして、「8つの問い」が有効だと述べている。「8つの問い」を用いて、相手の行動、思考、感情、望みが自分にどのように影響を与えたかということ併せて振り返ることで、自分についてのだけの振り返りでは気づきにくい、自身の無意識の部分に気付くことができるとしている【表1】。

表1 8つの問い

0.その事象の文脈はどのようなものだったか？		
行動	1.私は何をしたのか？	5.相手は何をしたのか？
思考	2.私は何を考えたのか？	6.相手は何を考えたのか？
感情	3.私はどう感じたのか？	7.相手はどう感じたのか？
望み	4.私は何を したかったのか？	8.相手は 何を したかったのか？

このことから、「8つの問い」を用いたリフレクションにより、自分の経験について、行動や思考だけではなく、行動を支える感情や望みといった、内面についての振り返りを促すことができる。と考える。

(6) 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

島（2020）は、道徳科の授業で生徒の経験を直接扱うことについて、次のことを述べている。

- ・ 「もし、それぞれの子どもに最初から自分の経験を思い出させて話をさせると、心の中に入る以前にその経験の状況が違うため、話し合いは噛み合っていない。」

また、読み物教材を活用することについて、次のことを述べている。

- ・ 「その話題が子どもたち自身のことではないからこそ、子どもたちは、自分の心の中を探られるといった抵抗感なく発言できる。」

- ・ 「『教材』という共通の土俵で、登場人物に自分を重ねて考え、意見を交流するため、まさに、心の中に話し合いの中心が定まる。」

このことから、道徳科の授業においては、教材を活用し、それを手掛かりにして、自分の経験を振り返ることに留意する必要があると言える。

『『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）』（以下『報告』）では、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習について、「教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。」と示されている。

このことから、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」が、道徳的諸価値の理解を深めるために効果的だと言える。

(5)と(6)から、本研究では道徳科の授業の中で、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」に、コルトハーヘンが提唱するリフレクションの方法である「8つの問い」を援用し、道徳的諸価値についての理解を深めるための指導方法の工夫を探ることとした。

2 研究の構想

(1) 研究の構想

これまで述べてきた基礎的研究に基づき、作成した研究構想図を【図3】に示す。

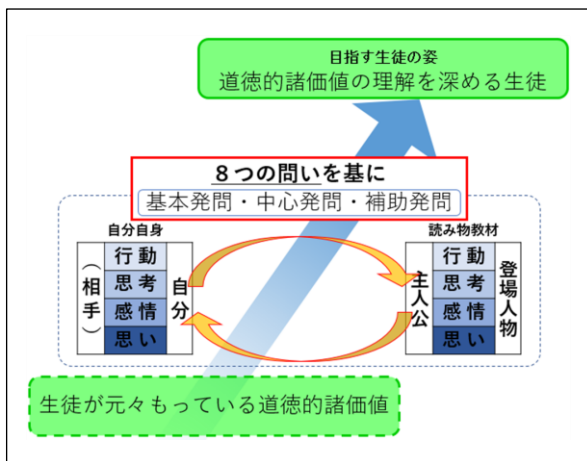


図3 研究構想図

生徒が、ふだんの生活で捉えていた道徳的価値の意味を、更に明確にしていく姿を目指す。そのための手立てとして、「8つの問い」を基に、読み物教材の登場人物を介して、生徒自身の経験を振り返る指導方法の工夫を試みた。

(2) 道徳的諸価値についての理解を深めるための指導方法の工夫

『報告』から、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」は、

- ・ 読み物教材の登場人物の判断や心情を考える。
- ・ 自分との関わりにおいて考える。
- ・ 多面的・多角的に考える。

という学習活動があると考えられる【図4】。

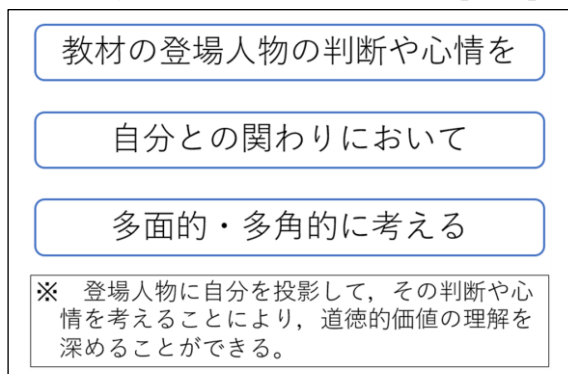


図4 登場人物への自我関与が中心の学習

この「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」の学習活動に、「8つの問い」の特長を重ねると、次のような指導方法の工夫が考えられる【図5】。

- ・ 登場人物の行動や、それを支える心情について類推させる。
- ・ 教材の内容と似た自分自身の経験と、そのときの感じ方や考え方と照らし合わせることを促す。
- ・ 主人公だけでなく、主人公に影響を与えた他の登場人物の行動や、それを支える心情を、主人公と比較しながら考えさせる。

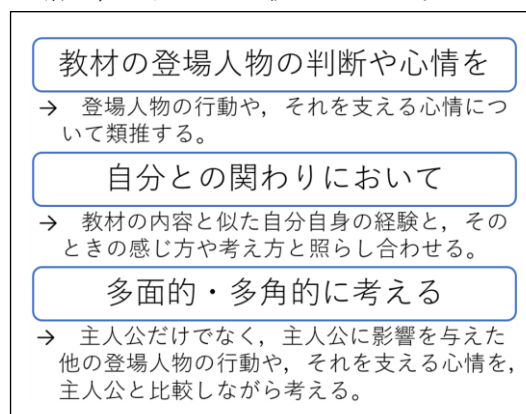


図5 「8つの問い」を取り入れた登場人物への自我関与が中心の学習

読み物教材の登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考える際に、「8つの問い」を用いて、自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせることで、道徳的諸価値を自分との関わりで捉えることができ、道徳的諸価値の理解が深まると考える。

(3) 「8つの問い」を取り入れたワークシートと活用する際の指導上の留意点

この「8つの問い」を取り入れた登場人物への自我関与が中心の学習を通して、生徒が道徳的諸価値についての理解を深めることができるよう、ワークシートを作成した（以下「8つの問い」のワークシート）。このワークシートを活用する際の指導上の留意点について、次頁【資料2】のように、IからVに整理した。

また、具体的な活用の流れについて、①から⑤に示し、指導上の留意点と併せて、次頁【図6】に示す。

**資料2 「8つの問い」を取り入れたワークシート
を活用する際の指導上の留意点**

I 不一致に着目させる
主人公自身、または主人公と他の登場人物の行動と内面の間に不一致がある点については、ペアで意見交換したり、全体で交流したりして共有する。

II 経験を想起させる
教材の中の、道徳的価値に根差した問題が生じる場面について考える際は、生徒自身が似たような経験をした状況を想起させた上でメモを取らせ、リフレクションをしやすいとする。

III 共感、納得を明らかにさせる
自分の意見は鉛筆、他の生徒の納得した意見は赤ペンで書かせる。また、登場人物について生徒が共感できる点については線を引かせる。

IV 人物同士の関係性を捉えさせる
主人公と併せて振り返りを行う登場人物以外の登場人物についても、人物同士の関係や関わりが分かるように、補助発問を行う。

V 他の登場人物の思いを手掛かりにさせる
主人公に大きな関わりのある登場人物の本当の思いを手掛かりにして、主人公の本当の思い（道徳的価値）に迫る中心発問について考えたり、議論したりする。

① 本時の内容項目に関わることについて考えたことを書かせる。これによって、生徒がふだんの生活で捉えている道徳的価値についての意味を確認できるようにする。

- ② 教材を読み、自分自身の生活の中にある教材と似たような経験を書かせる。これによって、自分との関わりで考えられるようにする。
- ③ 「8つの問い」を用いて、主人公と他の登場人物の行動と心情について、表に整理させる。まず、生徒が考える内容を絞るために、登場人物の「行動」について焦点化する。その後、それぞれの「行動」に対する「考え」や「感情」「思い」について類推させる。これによって、登場人物の行動の背景にある心情について、深く考えられるようにする。
- ④ 中心発問によって、登場人物の心情について、再度、深く考えられるようにする。あわせて、生徒が登場人物を介して、道徳的価値について考えられるようにする。
- ⑤ 本時の内容項目について、本時の学習を振り返りながら、改めて考えたことをまとめ、①と⑤を比較する。これによって、ふだんの生活において捉えている道徳的価値の意味を更に明確にして捉える。毎時間、書いたものを蓄積していく。

ワークシート

第4回「足袋の季節」
2年 組 番 名前

1 「人間の強さ」とは、どんなことだろうか。
① ① ② II

2 「私」とおばあさんの立場で考えてみよう。

	「私」	おばあさん
行動	I ・ III ・ IV	
考え	③	
感情		
思い願い		

3 は、どこにあり、どう としたのだろうか。
④ ④ V

振り返りシート

2年 組 番 名前

A 責任ある言動とはどのようなことだろうか。この時間を通じて考えたことを書こう。

第1時

B 相手を理解するために、大切なことは何だろうか。

第2時

⑤

C 家族を大切にすることは、どんなことだろうか。

第3時

D 「人間の強さ」とは、どんなことだろうか。

第4時

図6 「8つの問い」を取り入れたワークシート

3 研究仮説及び検証の視点と方法

(1) 研究仮説

中学校道徳科の授業において、「8つの問い」を取り入れたワークシートを活用することで、生徒が道徳的諸価値の理解を深めることができるだろう。

(2) 検証の視点と方法

検証の視点とその方法を【表2】に示す。

表2 検証の視点と方法

	検証の視点	検証の方法
1	道徳的諸価値についての理解を深めることができたか。	ワークシート・行動観察の分析
2	「8つの問い」を取り入れたワークシートを活用した指導は、道徳的諸価値についての理解を深めることに有効だったか。	ワークシート・行動観察・アンケート・抽出生徒の分析

(3) 道徳授業アンケートの実施について

『解説』では、評価の視点として、「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」が示されている。「例えば、読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目したり、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目したりするという視点も考えられる。また、道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているかや、道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているかという視点も考えられる。」⁸⁾とされている。

本研究では、このことと、生徒が道徳的価値の理解を深めていくために講じた手立てである、「8つの問い」のワークシートの①から⑤の各段階における指導のねらいが重なると捉える。意識の変容からその有効性を見取るために、検証授業前、検証授業後に道徳授業アンケート

を実施した（以下「道徳授業アンケート（前）（後）」【資料3】。[]内は、ワークシートの主なねらい（前頁【図6】）とのつながりを示す。

資料3 質問項目

- ① 道徳の授業では、読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている[主にワークシート②③④]。
- ② 道徳の授業では、現在の自分自身を振り返り、自分の行動や考えを見直している[主にワークシート①②]。
- ③ 道徳の授業では、自分の考えを他の人と議論する中で、よりよく生きるために大切なことへの理解がさらに深まる[主にワークシート③④]。
- ④ 道徳の授業で学んだ、よりよく生きるために大切なことを、実際の生活の中で実現することは難しいと感じる[主にワークシート⑤]。

4 検証授業の計画と実施

(1) 検証授業の内容

ア 期間 令和2年10月28日～11月18日

イ 対象 中学校 第2学年（40名）

(2) 検証授業計画の工夫

2人以上の登場人物の間に道徳的諸価値に根差した問題が生じる読み物教材を取り扱った。

また、生徒が「8つの問い」のワークシートを継続的に活用し、内容項目の四つの視点を基に、「A 主として自分自身に関すること」から「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」へと、視点を広げながら、道徳的諸価値の理解を深めることができるよう計画した【図7】。

授業	内容項目	教材名
第1時	A 自主、自律、自由と責任	「ネット将棋」
第2時	B 相互理解、寛容	「コトコの涙」
第3時	C 家族愛、家庭生活の充実	「きいちゃん」
第4時	D よりよく生きる喜び	「足袋の季節」

「8つの問い」を取り入れたワークシートを継続的に活用させる

A→D 視点を広げることができるよう順序立てる

2人以上の登場人物の間に道徳的諸価値に根差した問題が生じる読み物教材を取り扱う

図7 検証授業計画の工夫

(3) 本時のねらいと学習指導過程

本時のねらいと学習指導過程を【表3】に示す。

表3 本時のねらいと主な学習指導過程

時	主題名 教材名 ねらい	主な学習活動 (1 導入 2~4 展開 5 終末 ○基本発問 ◎中心発問)
1	責任ある言動 「ネット将棋」 敏和の言葉を聞いて笑えなかった主人公「僕」の思いを考慮することを通して、誠実に行動することの大切さを理解し、自主的に行動しその結果に責任をもとうとする態度を育てる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の内容項目に関わることについて考える。 ○ 「責任ある言動」とはどのようなことだろうか。 2 教材を読み、自分自身の似たような経験やそのときの感じ方、考え方を想起する。 ○ 「責任を感じる」とは、どのようなときだろうか。 3 「8つの問い」を用いて、主人公と他の登場人物の「行動」「考え」「感情」「思い」について類推しながら、表に整理する。 ○ 「僕」と敏和の行動や心情について考えよう。 4 主人公の思いについて考える。その際、他の登場人物の思いとのずれを基にする。 ◎ なぜ「僕」は敏和のツッコミに笑えなかったのだろうか。 5 本時の内容項目について、感じたこと、考えたことをまとめる。 ○ 「責任ある言動」とはどのようなことだろうか。
2	わかり合うこと 「コトコの涙」 コトコの涙の理由を考慮することを通して、互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立ってさまざまなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の内容項目に関わることについて考える。 ○ 相手を理解するために、大切なことは何だろうか。 2 教材を読み、自分自身の似たような経験やそのときの感じ方、考え方を想起する。 ○ 「よかれと思ってやったことで、上手くいかなかったこと」はあるか。 3 「8つの問い」を用いて、主人公と他の登場人物の「行動」「考え」「感情」「思い」について類推しながら、表に整理する。 ○ コトコと田島さんの行動や心情について考えよう。 4 主人公の思いについて考える。その際、他の登場人物の思いとのずれを基にする。 ◎ コトコが泣いたのは、なぜだろう。 5 本時の内容項目について、感じたこと、考えたことをまとめる。 ○ 相手を理解するために、大切なことは何だろうか。
3	家族のきずな 「きいちゃん」 きいちゃんと、母と姉の思い合う気持ちを考慮することを通して、生徒が自分も家族にとってかけがえのない存在であることに気付き、家族を敬愛する心情を育てる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の内容項目に関わることについて考える。 ○ 家族を大切にすることは、どういうことだろうか。 2 教材を読み、自分自身の似たような経験やそのときの感じ方、考え方を想起する。 ○ 「家族から言われて納得できなかったこと」はあるか。 3 「8つの問い」を用いて、主人公と他の登場人物の「行動」「考え」「感情」「思い」について類推しながら、表に整理する。 ○ きいちゃん、お母さん、お姉さんのそれぞれの行動に対する考えや感情、思いについて考えてみよう。 4 主人公の思いについて考える。その際、他の登場人物の思いとのずれを基にする。 ◎ きいちゃんが「生んでくれてありがとう」とお母さんに話したのは、なぜだろう。 5 本時の内容項目について、感じたこと、考えたことをまとめる。 ○ 家族を大切にすることは、どういうことだろうか。
4	強く気高く生きる 「足袋の季節」 主人公「私」の生き方と「おばあさんがくれた心」について考慮することを通して、弱さと向き合い、弱い心に負けている自分を許さず、そのような自分を変えたいと自分を奮い立たせることで、目指す生き方や誇りある生き方に近付こうとする態度を育てる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の内容項目に関わることについて考える。 ○ 「人間の強さ」とは、どんなことだろうか。 2 教材を読み、自分自身の似たような経験やそのときの感じ方、考え方を想起する。 ○ 「自分って弱いな」と思うときは、どのようなときだろうか。 3 「8つの問い」を用いて、主人公と他の登場人物の「行動」「考え」「感情」「思い」について類推しながら、表に整理する。 ○ 「私」とおばあさんの、行動に対する考えや感情、思いについて考えてみよう。 4 主人公の思いについて考える。その際、他の登場人物の思いとのずれを基にする。 ◎ 「私の弱さ」はどこにあり、「どう乗り越えよう」としたのだろうか。 5 本時の内容項目について、感じたこと、考えたことをまとめる。 ○ 「人間の強さ」とは、どんなことだろうか。

5 検証授業の分析と考察

(1) 道徳的諸価値についての理解を深めることができたか

ア ワークシートの分析

ふだんの生活において捉えている道徳的価値の意味を更に明確にしようとしているかを、授業開始時(p. 5【図6】①)と振り返り(p. 5【図6】⑤)の記述内容を比較し、価値理解、他者理解、人間理解、自己理解の視点で考えに変容があるかを見取った【表4】。

表4 振り返りの記述内容の変容

授業	変容有り	変容無し	人数
第1時	37	0	37
第2時	36	0	36
第3時	34	2	36
第4時	36	0	36

内容項目についての発問に対し、第1時は37名、第2時は36名、第3時は34名、第4時は36名の記述内容に変容が見られた。詳細をイで述べる。

第3時において、授業開始時と振り返りの記述内容に変容が見られない生徒が2名いた。

「家族を大切にすること」について、授業の前後ともに、「家事を手伝うこと」「一緒にご飯を食べること」と記述していた。その理由について、授業後のインタビューで「家族の中で自分ができることをしたいと思った」「当たり前だと思っていることを大事にしないといけないと思った」と答えており、記述内容や授業中の様子から見取ることは難しかったが、初めに記述したことを再確認した上で価値を自覚しており、自分なりに道徳的価値の理解を捉え直したと思われる。

一方で、この2名の生徒については、当該授業において、教材の内容と似たような経験(p. 5【図6】②)を書くことができていなかった。

このことから、教材の内容と似たような経験

を意図的に想起できない場合、生徒がふだんの生活で捉えていた道徳的価値の意味から、考えが変容しにくいことが考えられる。そのため、補助発問や学習班での交流などの場面で、授業者の更なる工夫が必要だと感じる。

イ 視点の変容の詳細

各授業における生徒の授業開始時と振り返りの記述内容を基に、視点の変容を詳しく見取った(複数の視点で記述している場合もある)【表5】。

表5 視点の変容の詳細

	価値理解		他者理解		人間理解		自己理解		視点無し		人数
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
第1時	8	31	0	4	0	12	0	17	29	0	37
第2時	11	34	0	18	0	3	0	9	25	0	36
第3時	12	31	0	6	0	6	0	21	24	2	36
第4時	14	35	0	4	0	16	0	11	22	0	36

授業開始時の記述内容を見ると、一部、価値理解について記述している生徒はいるものの、多くの生徒は、行動面に注目している内容、または視点のない内容であった。

しかし、授業の振り返りの記述内容については、行動についての記述から、ほとんどの生徒が、感情や思いなど内面に注目した記述へと変わったり、新たな視点をもったり、自分自身を振り返ったりなどしていた。このような変容が、第1時から第4時全体を通して見られた。

視点ごとに見ると、価値理解の視点で考えに変容がある生徒がもっとも多く、次いで自己理解が多い。このことから、学習した内容を基に、まずは自分自身を振り返っている生徒が多いと推察される。

以上のことから、全4時間を通して道徳的諸価値についての理解が深まっていると考える。

(2) 「8つの問い」を取り入れたワークシートを活用した指導は、道徳的諸価値についての理解を深めることに有効だったか

生徒のワークシートの記述内容や発話記録、行動観察を基に、「ア 第1時」から「エ 第4時」まで各授業の分析を行った。初めに(ア)教材の概要を示し、次に(イ)学級全体の傾向

について述べていく。「8つの問い」のワークシート (p. 5【図6】) の、以下に示す5項目において、生徒がどのように思考しているかを考察する。

- ・ 授業開始時の記述 (以下①という)
- ・ 自分の経験(以下②という)
- ・ 8つの問い(以下③という)
- ・ 中心発問 (以下④という)
- ・ 振り返りの記述 (以下⑤という)

また、番号Ⅰ～Ⅴにより、「8つの問いを取り入れたワークシートを活用する際の指導上の留意点」(p. 5【資料2】)との関連を示す。

さらに抽出生徒として、「オ 生徒X」と、「カ 生徒Y」の全4時間を通した分析・考察を行った。最後に、「キ 道徳授業アンケートの分析」について述べる。

ア 第1時

(7) 教材の概要

「ネット将棋」

将棋や囲碁は、対局者の一方が自分の負けを宣言することで終局となり、対局者双方の自主性・自律性が不可欠である。この教材では、ネット将棋で負けを認められず、不誠実な行動をしてしまう主人公「僕」が、友人である「敏和」の言葉を聞いて、誠実に自らの行動に責任をもって行動するとはどういうことかを考え始める。責任とは何か、生徒に改めて考えさせたい教材である。

(4) 学級全体の傾向

①では、「責任ある言動」について、「頼まれたことをしっかりとやること」など、他律的な記述内容が多く見られた。

⑤では、次のような記述が見られた【資料4】。

資料4 振り返りの記述(第1時)

- ・ 責任とは、自分が不利な立場になったときでも、最後までやり遂げること。それが自分の成長につながる事が分かりました。私も試合などがあると、負けるのが悔しくて認めたくないことがあります。だけどそういう時こそ、相手にも心から「ありがとうございました」と言える人でいたいと思いました。

全体として、①の他律的な「責任」と比べると、下線部のように、自律の大切さに気付いていると見取れる記述内容の生徒が31名いた。他律から自律へ、「責任」の価値理解を深めている生徒

が多いと考えられる。

②の「似たような経験はあるか」と聞いた箇所では、すぐに書くことが難しかったため、

「責任を感じた経験や、無責任だったかもしれないと思った経験はあるか」と、具体的に発問を行った。そうすると、少し時間がかかったものの31名の生徒が、それぞれ自分のことを振り返りながら生活体験を想起して書いていた(Ⅱ)。このことから、「経験」を問う際は、教材の内容項目に関わる具体的な発問が必要だと分かった。

③では、主人公「僕」と敏和のどちらに共感できるか聞いたところ、約半数ずつだった。「僕」に共感すると答えた生徒のうち、14名が「負けそうになったらログアウトをした」の行動に下線を記し、共感を示している(Ⅲ)。また、それらの生徒は②においても、「途中で諦めて止めてしまった経験」「他人のせいにしてしまった経験」を書いていた(Ⅱ)。

④では、「僕」が敏和の話の聞いて笑えなかった理由について、初発の記述内容では、「敏和が言ってることが正しいと思ったから」などにとどまり、なぜ正しいと思ったのかという理由について、全員が記述できていなかった。主人公のみの心情を掘り下げるだけでは、道徳的価値の理解を深めることが難しいことが改めて分かった。そこで、③に立ち返り、「『僕』と敏和の考えや思いの違いは何だろうか」と発問(Ⅰ)し、学習班での交流(Ⅴ)を行った。「僕」と敏和の考えや思いの違いを比較した後は、道徳的価値の理解を深めていると見取れた生徒が27名いた。以下はその際の発話記録である。(Tは教師)

- A: 俺こっち(「僕」)の経験全部当てはまるんだけど。
C: それな。けど、どっちもあるけど、自分はどっちかっていうと、こっち(敏和)。
B: あんまりこっち(敏和)の経験がない俺は、オンラインゲームで負けた時、相手責めるもん。
A: 負けたのに本気で「ありがとうございました」って言ったことない。敏和ができてることが、自分ではできていないって気付いたんかね。
T: 今回の件で、敏和と「僕」の違いって何だろう。
A: 考え方や人間性が違う。
B: うん。
C: うん。でも人間性ってどういうこと?
A: 敏和は結果に対して前向き。
B: ポジティブかネガティブか。うーん、「勝ちたい」だけじゃ足りんのよね。

それぞれの生徒が、下線部のように、自分の経験と登場人物を重ねながら、考えを深めていることがうかがえる。

これらの分析から、「8つの問い」のワークシートについて、生徒が自分の経験と登場人物、または主人公と他の登場人物の行動や心情を比較することが、考えを深めることに有効だったと考える。ただし、「経験」を問う際は、ねらいとする内容項目に関わる具体的な発問をすることが大切だと分かった。

イ 第2時

(7) 教材の概要

「コトコの涙」

主人公コトコはボランティア活動中、老人ホーム利用者の笹岡さんによかれと思って声をかけたことを友人であるマサシに批判され、その真意が理解できずに悩む。老人ホームの園長の田島さんから、優しく接することは間違いではないと慰められるが、ボランティアは「よいことをしていると思ったらダメ」と自分の価値観を押し付けてはいけないことを諭され、涙を流す。コトコの心が変わる様子が「涙」で表現されている。相手を理解することで、自分の考えの間違いや狭さに気付くことができることについて考えさせたい教材である。

(4) 学級全体の傾向

①では、「相手を理解するために大切なこと」について、「目と目を合わせて話す」「話を最後まで聞く」など、行動面についての記述内容の生徒が25名だった。

⑤では、次のような記述が見られた【資料5】。

資料5 振り返りの記述(第2時)

- 相手を理解するためには、自分の考えを押し付けるのではなく、相手の意思や考えを尊重し、相手のプライドを重んじることが大切だと分かった。自分は相手の意思など関係なく、思ったことをストレートに言っていたので、改めようと思った。

下線部のように、自分の思いだけでなく、相手のプライドや、大切にしている考え方を尊重することや、自分はよいと思ったことでも、相手の受け止め方が違う、多様であることなどについて、気付きを書いている生徒が28名と多かった。

②では、「相手によかれと思ってやったのに、

失敗した経験」を書いていた。一方で、似たような経験を想起して書けなかった生徒が、教師が語った経験を加筆していた(Ⅱ)。このことから、必要に応じて教師が経験を語ることが、生徒が考えを深める手掛かりになると考える。

③では、「田島さん」の「考え」や「思い」に下線を記す生徒が多かった(Ⅲ)。冒頭で、主人公「コトコ」の失敗と同じ行動を取ると思うと答えた生徒が35名とほとんどであった。コトコの「行動」への共感が、「考え」「感情」への共感へとつながり、コトコが信頼を寄せる田島さんのアドバイスを、自分のこととして受け止め、コトコの「思い」を考えていると推察する。

その結果④では、自分ではなく相手を尊重するという田島さんのアドバイスを受けて、主人公コトコの涙の理由について、「自分の間違いに対して」以外に、「マサシに対して」「笹岡さんに対して」と、他の登場人物の立場を理解しようとする他者理解の視点の記述が28名と多く見られた(V)。

以上のことから、「8つの問い」のワークシートで順に整理することで、初めは「行動」への共感だったものが、「考え」「感情」への共感へとつながったと考える。さらに、そのことで登場人物の「思い」を自分の「思い」と重ねて考えやすくなったことが、道徳的価値の理解を深めていくことに有効だったと考える。

一方で、多くの生徒が、コトコと田島さんの「思い」について話し合う学習班での交流の際、記述内容の確認にとどまり、他者の意見に対し、なぜそのように思うのかなどの理由を聞いていなかった。第2時では、「行動」「考え」「感情」を全体で整理したが、生徒が「8つの問い」のワークシートの活用に慣れてきたため、第3時以降は個人で思考する時間を長く設定することにした。そうすることで、話し合い活動において、更に意見を深めることができると考える。

その際、話し合いの視点を明確に示すなど、補助発問の工夫が必要だと考える。

ウ 第3時

(7) 教材の概要

「きいちゃん」

身体に障害のある主人公「きいちゃん」が、姉の結婚式で「妹はわたしの誇りです。」と紹介され、姉の気持ちを知ることで、その生き方が明るく変わり母に感謝の思いを伝えるという内容である。様々な家庭の事情を抱えている生徒もいることから、指導に当たっては十分に配慮する必要があるが、家族の深い愛情に支えられながら今の生活があることや、家族が相互に信頼し合い協力し合って生活していくことが、明るい今後につながっていくということについて考えさせるのに適切な教材である。

(4) 学級全体の傾向

①では、「家族を大切にするとどのようなことか」という発問に対して、「家事を手伝う」「お互いを思いやる」という記述内容が多く見られた。

⑤では、次のような記述が見られた【資料6】。

資料6 振り返りの記述(第3時)

- ・ 家族を大切にするためには、きいちゃんのように、家族に感謝を伝えることが大事だと思います。家族を大切にすることは、話をたくさんしたり、手伝いをすることだと思います。これから今まで以上に家族を大切に生活していきたいと思います。

下線部のように、多くの生徒は、家族の中の自分の役割に注目していた。家族の中で自分ができる役割を考え、実行していきたいというように、自己理解を深めている生徒が21名いた。

第2時における、学習班の交流の方法の課題を踏まえて、登場人物の「行動」について焦点化し、全体で共有した。その後、登場人物の「考え」「感情」「思い」について、まずは個人で考え、個人で埋められなかった欄を中心に、学習班で議論して考えさせるようにした。

②の発問を、登場人物の「感情」「思い」を考える段階で行ったところ、経験を想起して記述することがなかなかできない生徒が15名いた(Ⅱ)。主人公「きいちゃん」が「生まれてこなければよかった」と言った場面の「感情」「思い」を考える段階では、状況の深刻さと、生徒自身の経験を結び付けて考えにくかったためだと考えられる。登場人物の「考え」「感情」「思い」

を生徒が考え始める前の、「行動」の段階で、似たような「行動」の経験を問い、そのときの感じ方や考え方を想起させていくことが重要だと考える。このことから、「経験」を問う発問は、登場人物の「行動」を焦点化した直後に、そのときの感じ方、考え方を想起することと併せて行うことが効果的だと考える。

③の学習班での交流の際、「経験」を書いた欄を手で隠している生徒がいた。「経験」を自ら交流する生徒や、他の生徒の「経験」を知りたそうにしている生徒がいるものの、生徒の経験を表現する際の方法には、十分留意する必要があると改めて分かった。

また、きいちゃんの「思い」について書くことができず、話合いが行き詰まっている班が多くあった(Ⅰ,Ⅴ)。しかし、一つの班で授業者が、「こんな時(家族に反発している時)、自分だったら、どんな思いだったと思うか」と補助発問したところ、「(それでも)家族のことは大好き」だと自分の経験から類推して答え、きいちゃんの家族が思い合っていることに気付いた様子を見せ、加筆した後、更に下線を記し、共感を示す生徒がいた(Ⅱ,Ⅲ)。

加えて、それをきいちゃんの「思い」として発表し、全体で交流したことで、きいちゃんの「思い」について「(家族のことが本当は)大好き」だと加筆した生徒が11名いた。

④では、②で自分の経験を想起し、③で、きいちゃんの「思い」を書くことができた生徒が特に、きいちゃんがこれまで気付かなかった、「母」からの愛情について書いていた。

それらの生徒は、⑤で「自分の幸せが家族の幸せにつながると思ったので、自分自身も大切にしたいと思いました」と書くなど、家族からの愛情への気づきを深めた上で、自分自身を振り返っている様子が見られた。

一方で、きいちゃんが、自分の障害に負けずに誇りをもって生きていく姿に注目している生徒も15名と多く、その生徒は自分の経験と結び付けて考えることができていないように見受けられた。その生徒の多くは、⑤において、家族の中

で自分が果たすべき役割についての考えを記述していた。

これらの分析から、「経験」を問う発問は、登場人物の「行動」を焦点化した直後に行うことが効果的だと考える。さらに、登場人物の行動や心情を考える手掛かりとして、「経験」だけでなく、そのときの感じ方、考え方を想起する補助発問が必要だと考える。また、生徒が自分自身の経験を交流したり、表現したりする際は、生徒同士が直接交流する形を避けるなど、十分留意する必要がある。

Ⅱ 第4時

(7) 教材の概要

「足袋の季節」

貧しい老婆から釣銭をごまかし良心の呵責に悩む主人公「私」は、後年、謝罪に訪れるが、老婆はすでに亡くなっていた。「私」が貧困と寒さに耐えきれず、釣銭で足袋が買えると考えた罪と後悔を糧に、「おばあさんにもらった心」を人生に前向きに生かそうとしてきた姿勢に、自分の弱さと向き合おうとする生き方を学ばせたい教材である。

(1) 学級全体の傾向

①では、「人間の強さとは、どんなことだろうか」という発問に対して、生徒は、「あきらめない気持ちをもつこと」などを書いていた。

⑤では、次のような記述が見られた【資料7】。

資料7 振り返りの記述

- 人間の強さとは、自分の弱い所に負けてしまっても、それを乗り越えようとし、再び挑戦できること。そのためには、自分の弱さと向き合い、それに立ち向かっていきたいと思った。

35名が価値理解を深めていた。35名の中でも、下線部のように「人間の弱さ」を認めながらも克服したいとする記述内容の生徒が16名おり、道徳的価値を「人間理解」の視点で深めている様子が見えた。

②では、第3時の課題を生かして、登場人物の「行動」について焦点化し、全体で共有した直後に、生徒自身の経験を問う発問を行った。「自分って弱いなあと思った経験はあるか」との発問に対し、「数学でどうしても解けない問題があった時に、あきらめてしまったこと」な

ど、後悔したり失敗したりしたことなどの経験と、そのとき感じたこと、考えたことを書いている生徒が34名と多かった(Ⅱ)。

この34名全員が③では、主人公「私」の「考え」について、「本当にもらっていいのかな」という葛藤や、情けないといった「感情」、「自分をみじめに思う」という「自責の念」を自分の言葉で表現した「思い」などについて書いていた。「おばあさん」についても、それぞれが自分なりに類推して記述している。

また、「もし自分が『私』でも、同じように嘘をついてしまうかもしれない」と、主人公「私」の出来事を自分のこととして捉え、人間として弱い部分に共感する生徒が、26名いた(Ⅲ)。

登場人物の、行動を支える心情について深く掘り下げる過程で生徒は同時に、②で挙げた自分自身の経験や、そのときの感じ方、考え方と結び付けながら内省し、自分について振り返っていると推察される。

④では、『私』の弱さはどこにあり、どう乗り越えようとしたのか」という中心発問に対して生徒は、「自分に負けたことが弱さ。おばあさんの思いに恥じないように、何事も前向きに取り組もうとした」などを書いていた。自分の弱さを認めつつも克服しようとしている主人公の思いに気付きを深めていると見取れる記述内容の生徒が30名いた(V)。

これらの分析から、「8つの問い」のワークシートを活用する際、登場人物の「考え」「感情」を生徒が考え始める前の、「行動」の段階で、似たような「行動」の経験を問い、そのときの感じ方や考え方を想起させていくことが効果的だと考える。これにより、発展的な内容といえる「Dの視点」においても、人間理解を深めることにつながったのではないかと考える。

オ 抽出生徒Xの分析

Xは、第1時から第4時を通して、内容項目についての授業開始時の発問では、記述内容に視点がなく、行動面に注目したものが多かった。しかし、授業後の記述では、Xは全時間において視点を広げており、道徳的諸価値についての

理解を深めていることがうかがえる【表6】。

表6 全4時間を通した抽出生徒Xの変容

①	価値	他者	人間	自己	⑤	価値	他者	人間	自己
第1時					第1時	○		○	○
第2時					第2時	○			
第3時					第3時	○			
第4時					第4時	○			○

また、Xが、どのように道徳的諸価値の理解を深めていたか、例として、第1時のXのワークシートの記述内容を以下に示す【資料8】。

①では、「責任」について、「自分の行動に自信をもつこと」だと捉えていた。これは、行動面に着目した内容である。

資料8 抽出生徒Xのワークシートの記述内容

①	・自分の行ったことに対して、自分がやりましたと言えること。	
②	・試合で負けた時、悔しすぎてきちんと挨拶をしなかった。 ・負けた時、「相手がルール違反をした」と言った。	
③	「僕」	敏和
行動	・完全に戦意を失ってログアウトする。	・本気で「ありがとうございました」と言う。
考え	・負けを認めたくない。 ・かえって腹が立った。	・自分が試されている。 (・礼儀が大事。)
感情	・嫌な気持ち。 ・イライラ。	・前向き。 (・自分を理解している。)
④ 思い	・自分は敏和みたいな考え方ではできないと思ったから。	・負けを認める素直さ。 (・地道な努力。)
⑤	・振り返った時、自分が堂々と言える言動が責任。これまでの自分は「僕」、これからの自分は「敏和」(素直な人)になれるようにがんばります。	

⑤では、「これまでの自分は『僕』、これからは『敏和』になれるようにがんばる」と記述していた。これは、道徳的価値を自分のこととして捉えて自分を振り返り、目標を設定している姿だと考える。①から⑤への変容の過程を以下に示す。

②では、「無責任だったと思う経験はあるか」という発問に対し、「試合で負けた時、相手のせ

いにした」経験をあげていた(Ⅱ)。

③では、ワークシートの表、主人公「僕」についてのみ下線を記しており、②を基に、不誠実な行動をしてしまう「僕」に共感していることがうかがえる(Ⅲ)。

ここまででは、「僕」への共感にとどまっていたが、④において、③での整理を基にした意見交流をきっかけに、敏和の「思い」についても考えるようになった(Ⅴ)。

以下はその際の発話記録である。

X: 負けた時悔しくて相手のせいにしちゃうことない?
D: めっちゃあるよ。言い訳する。
X: 「僕」は納得いかないかね。
D: 理解できないんよ。俺にも無理だ。
X: 「僕」は理解はしているけど、認められないんじゃない?
D: 敏和、何でこんな考え方できるんやろ。
X: 素直さだと思う。でも自分に厳しすぎるよね。
D: 負けを認められるか、認められないか。
X: 最初からこんな考え方できる人いない。
D: さすがにおらんよね。
X: 自分で負けを素直に認めて受け止めて、努力し続けたらこんな考え方になれるかね。

下線部から、意見交流の中で、Xが「僕」と敏和の違いを考え始め、どのようにすれば敏和のような考え方ができるようになるか、自分の中で考えを深めている様子が推察される。主人公だけでなく他の登場人物の行動や心情を一つずつ整理していたことで、敏和と「僕」(自分の思い)を比較しながら考えやすかったのではないかと思われる。

Xは、第2時以降も同様に、登場人物に共感した上で、比較しながら、自分の道徳的価値を深める様子が見られた。また、道徳授業アンケート(後)に、「道徳の授業で学んで、気を付けようと思ったことをその日の目標にして過ごしている」と記述し、日常生活へのつながりが見られた。

抽出生徒Xの様子から、生徒自身の似たような経験を想起し、登場人物の行動や心情に共感した上で、さらに他の登場人物と比較して考えることが有効だと考える。

カ 抽出生徒Yの分析

Yは⑤において、次頁【資料9】に示す下線部のように、第1時と第2時は、登場人物についての感想を中心に記述していた。しかし第3

時と第4時は、その時間で学んだ道徳的諸価値の理解を基に、自分を振り返る記述が見られた。

資料9 抽出生徒Yの⑤での全4時間を通した記述内容

第1時	・私は最初、他の人が失敗しても対応できる人の事だと思っていました。でも、今回の授業で、素直になったり前向きに捉えたりすることも、責任ある言動につながるのかなと思いました。「ネット将棋」から、僕と敏和の行動と考えを比べて考えることができたのでよかったです。
第2時	・相手を理解するためには、自分が良いと思ったことでも、相手の意地などがあることを忘れないようにすることが大切だと分かりました。コトコの気持ちや笹岡さんがどんな人だったかという事も分かったのでよかったです。
第3時	・私は家族に優しく接したりすることだと思っていました。でも、今回の授業で生んでくれて、育ててくれたという実感をもつことが大事だと分かりました。普段何気ない家族との関わりでも、常に自分の事を考えてくれているのかなと、考えることができました。
第4時	・「私」の人生には、罪悪感や後悔が残ってしまったけれど、おばあさんの一言で少し前を向けていました。人間には強さもあるけれど、弱いところもあり、人に頼ったり、自分で何かを改善したりしていくことが大切なのかなと感じました。私も主人公のように、弱さに負けてしまうことがあるので、負けたくないようにしたいです。

Yの、全4時間を通した道徳的諸価値の理解の変容【表7】を見ると、第1時と第2時の授業始めは内容項目に関する発問に対して、行動面について書いており、道徳的価値の理解の視点は見られなかった。しかし、第3時と第4時では、自分の考える価値について記述できるようになった。また、授業終わりでは、どの授業においても、新たな視点をもって書くことができている。特に第4時では、全ての視点において道徳的価値の理解を深めている姿が見られた。

表7 全4時間を通した抽出生徒Yの変容

①	価値	他人	人間	自己	⑤	価値	他人	人間	自己
第1時					第1時	○	○		
第2時					第2時	○	○		
第3時	○				第3時	○			○
第4時	○				第4時	○	○	○	○

Yがどのように道徳的諸価値の理解を深めていたか、例として、この第4時でのワークシートの記述内容を以下に示す【資料10】。

①では、「人間の強さ」について「長所や良いところがあること」だと書いている。これは、やや抽象的な内容の記述である。

資料10 抽出生徒Yのワークシートの記述内容

①	・自分の長所や良いところがあること。	
②	・勉強をしていたけれど寒くなり、こたつに入って勉強していたらそのまま寝てしまったこと。悔しいし、甘えてしまったと感じた。	
③	「私」	おばあさん
行動	・果物かごを川へ落とし、涙が止まらなかった。	・「踏ん張りなさいよ」と言って、「私」にお釣りを多く渡した。
考え	・謝っておけばよかった。 ・自分の弱さに負けてしまった。	・この子が喜んでくれるかもしれない。
感情	・悔しい。・情けない。 ・罪悪感。	・かわいそう。
④思い	・思っていたことを行動できなかった。 ・おばあさんの思いを受け止め頑張る。	・足袋を買ってがんばってほしい。 ・自分よりこの子を優先したい。
⑤	・人間には強さもあるけれど、弱いところもあり、人に頼ったり、自分で何かを改善したりして、弱さに負けないことが大切なのかなと感じました。私も主人公のように、弱さに負けてしまうことがあるので、負けたくないようにしたいです。	

②では、「自分って弱いなあと思った経験があるか」という発問に対して、「勉強をしていたけれど、そのまま寝てしまったこと」と記述していた。そのときの気持ちについて、「悔しかったし、自分に甘えてしまったと感じた」と、経験に加えて、そのとき感じたことや考えたことまで記述していた(Ⅱ)。

また、行動観察から、この時点では主人公「私」の行動について理解できるかという発問に対して、首を少しかしげて悩む姿を見せ、共感できない様子だった。経験や感じ方考え方を想起しただけでは、主人公の考えや感情に結び付けて考えようとしていないことがうかがえる。

授業者は、「登場人物の心情を考える際、考えることが難しい箇所については、②で挙げた自分自身の似たような経験と、そのときの感じ方や考え方を思い出して考えてみよう」という補助発問を行った。

③では、主人公「私」の「考え」「感情」について「自分の弱さに負けてしまった」「悔しい」「情けない」と書き、更に下線を記していた。補助発問をきっかけに、想起した経験での感じ方や考え方を基に、「私」の「考え」や「感情」を共感しながら、類推していたと考えられる。また、主人公に共感をしていたため、主人公に

起こった出来事を自分のこととして捉え、「おばあさん」の心情をしっかりと考えていることがうかがえた(I, III)。

さらに④の中心発問では、主人公「私」とおばあさんの思いの「ずれ」に着目しながら、主人公「私」の「弱さ」について「思っていたことを行動できなかった」「おばあさんの思いを受け止め頑張っている」と書いていた。主人公の人間としての弱さを抱えながらも生きていこうとする「思い」に気付いており、③よりも、考えを深めていた(V)。

⑤では、「主人公のように自分にも弱さがある」「人に頼ったり、自分で何かを改善したりして弱さに向き合うことが大切」と④で深めたことが自身の道徳的価値の深まりとして表れていた。

Yが②において、経験と併せて想起した、そのときの感じ方、考え方に関連する記述が、③④⑤に渡って見られた。

このことから、Yは、「8つの問い」のワークシートの活用を通して、自分の「考え」や「感情」と、登場人物の「考え」や「感情」を往還しながら考えることで、「弱さ」を抱えながらも葛藤する主人公「私」(自分)の「思い」に深く共感し、「人間理解」を深めた上で、自分自身を振り返っていたことがうかがえる。

さらに、道徳授業アンケート(前)では「登場人物に置き換えて考えるようにしている」と記述していたが、道徳授業アンケート(後)では、「登場人物の気持ちや行動を考えて、自分だったらと、自分に置き換えるようにしている」という記述に変わり、より自分の生活に引き付けて考えようとする意識の変容が見られた。

一方で、Yの第1時から第3時のワークシートを改めて見てみると、自分自身の似たよう経験については全時間記述があるものの、そのとき感じたことや考えたことについては書いていなかった。授業者が明確な補助発問を行っていなかったためだと考える。第4時では、経験を想起する際の補助発問を丁寧に行ったため、Yは、自分自身の経験だけでなく、そのときの

感じ方や考え方まで併せて書くことができていた。

このことから、「ウ 第3時」の分析においても述べたように、「経験」を問う際は、登場人物の行動や心情を考える手掛かりとして、「経験」だけでなく、そのときの感じ方、考え方を想起する補助発問を適切に行うことが重要だと考える。

抽出生徒Yの様子から、「8つの問い」のワークシートは、教材の内容を、自分との関わりで深めるために有効だったと考える。ただし、生徒が考えるきっかけになる視点を与えるために、適切な補助発問を行うことが重要である。

キ 「道徳授業アンケート」の分析

道徳的諸価値を自分との関わりで捉え、ふだんの生活において捉えていた道徳的価値の意味を、更に明確にしていこうとしていたか、道徳授業アンケートで生徒の意識を見取った(【資料3】、【表8】)。

【資料3】 質問項目(再掲)

- | | |
|---|---|
| ① | 道徳の授業では、読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている[主にワークシート②③④]。 |
| ② | 道徳の授業では、現在の自分自身を振り返り、自分の行動や考えを見直している[主にワークシート①②]。 |
| ③ | 道徳の授業では、自分の考えを他の人と議論する中で、よりよく生きるために大切なことの理解がさらに深まる[主にワークシート③④]。 |
| ④ | 道徳の授業で学んだ、よりよく生きるために大切なことを、実際の生活の中で実現することは難しいと感じる[主にワークシート⑤]。 |

表8 道徳授業アンケートの結果

質問	当てはまる		どちらかと言えば当てはまる		どちらかと言えば当てはまらない		当てはまらない	
	(4)		(3)		(2)		(1)	
	前	後	前	後	前	後	前	後
①	15	24	13	8	8	3	1	1
②	11	17	18	15	7	2	1	2
③	16	21	19	10	2	5	0	0
④	11	13	18	12	6	8	2	3

太枠で示すように、全質問項目において、「当てはまる」と回答した生徒が増えている。

質問項目①で「当てはまる」の回答が15名から24名に増えている。読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている意識の高まりが見られる。

また、質問項目②で「当てはまる」の回答が11名から17名に増えている。現在の自分自身を振り返り、自分の行動や考えを見直そうとする意識の高まりが見られる。

質問項目③については、実際の授業の中で、他者の意見に共感し、ワークシートに加筆している生徒が多くいた。一方で、「どちらかと言えば当てはまらない」の回答が3名増えている。本研究の自分との関わりで捉えるという手立てによって、個人で思考する時間を長く設定したことが影響していると考えられる。

質問項目④については、「どちらかと言えば当てはまらない」の回答が2名増えているが、この2名は、自由記述の欄に「状況や場面によって難しさが違う」などを併せて記述しており、より具体的な想定をして回答していたため、意識は高まっていると考える。

検証授業前後のアンケートの記述で、次のような変化があった【資料11】。

資料11 道徳授業アンケートの前後の記述の変化

質問項目	検証授業前の記述 (回答した番号)	検証授業後の記述 (回答した番号)
①	・ 自分に置き換えたことはなかったから分からない。(2)	・ もし登場人物だったらどんな行動をとるか考えている。(3)
②	・ 自分を振り返ることはあるが、あまり直そうとしていない自分がある。(2)	・ 自分には何が足りないのか何が良いことなのかを考える。そこから自分のダメなところを直していく。(4)
③	・ 自分以外の他の意見を聞くことができ、自分のものにしようとするので、大切なことの理解がさらに深まっているから。(4)	・ 相手の考えを聞くこともできて1人ひとりの考え方を知ることでよりよく生きるために大切なことの理解ができるから。(4)
④	・ 心では思っているけど、実現するには勇気がいると思ったから。(4)	・ すぐには変えられないから、ゆっくりとやってみる。(4)

①と②の記述内容からも、登場人物を自分に置き換え、ねらいとする道徳的価値を自分との関わりで捉えたことで、ふだんの生活で捉えていた道徳的価値の意味を、更に明確にしていこうとする意識が高まったと考える。③の記述内

容から、他者の意見を自分の考えに生かそうとする意識が見られた。④の記述内容から、実際の生活の中で道徳的価値を実現することに難しさを感じつつも、実践意欲が高まっている生徒が多いと見受けられる。

このことから、全4時間を通して行った、「8つの問い」のワークシートを活用した指導により、道徳的諸価値についての理解を深めていく意識を高めることができたと考えられる。

全4時間の分析や抽出生徒の思考の変容、道徳授業アンケートの分析から、自分との関わりで考える「8つの問い」を取り入れたワークシートは、道徳的諸価値の理解を深めるために有効であったと捉える。

V 研究のまとめ

1 成果

「8つの問い」のワークシートの活用により、道徳的諸価値を自分との関わりで捉えて、自分自身を振り返っている生徒の姿が多く見られた。また、生徒が、ふだんの生活で捉えていた道徳的価値の意味を、更に明確にしていく姿が見られ、道徳的諸価値についての理解を深めることができたことから、その有効性を示すことができたと考えられる。具体的には以下のとおりである。

○ 「8つの問い」のワークシートについて、生徒が自分の経験と登場人物、または主人公と他の登場人物の行動や心情を比較することが、考えを深めることに有効だったと考える。生徒自身の似たような経験を想起し、登場人物の行動や心情に共感した上で、さらに他の登場人物と比較して考えることが有効だと考える。

○ 「8つの問い」のワークシートは、教材の内容を、自分との関わりで深めるために有効だったと考える。「8つの問い」のワークシートで順に整理することで、初めは「行動」への共感だったものが、「考え」「感情」への共

感へとつながったと考える。さらに、そのことで登場人物の「思い」を自分の「思い」と重ねて考えやすくなったことが、道徳的諸価値の理解を深めていくことに有効だった。

2 課題と今後の展望

「8つの問い」のワークシートが生徒にとって有効な手立てとなるには、生徒が経験を想起できることが重要である。経験を想起させるために、次の3つのことを検討していく必要があると考える。

- 生徒に「経験」を想起させるには、ねらいとする道徳的価値（内容項目）に関わる具体的な発問を設定することが必要になる。そのためには、教師自身が、ねらいとする道徳的諸価値について深く理解し、ねらいとする道徳的価値の理解を、生徒が深めた際の姿を具体的に想定できることが重要だと実感した。
- 似たような経験を想起できない、または似たような経験がないという生徒が切実感をもてるように、生徒が想定できる内容の事例を、教師が示したり、他の生徒が挙げた経験について知ったりすることが支援になると考える。

ただし、授業において生徒が自分自身の経験を交流したり、表現したりする際は、生徒が自身の失敗などの経験を語ることによって、他者から誤解を受けたり、非難されたりすることがないように、十分留意する必要がある。例えば生徒同士が直接交流する形を避け、生徒の意見を教師が代わりに紹介するなどの方法が考えられる。

- 生徒が似たような経験を想起できるよう、教育活動全体を通じて行う道徳教育と、道徳科のつながりを意図して、生徒の「経験」や「学び」を生かすことができる道徳科の授業を意図的、計画的、発展的に行うことが重要だと考える。

今後も、生徒と共に考え、学ぶ姿勢を大切にしながら、実践を重ねていきたい。

引用文献

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』教育出版、平成30年、p.13
- 2) 前掲書 1), p.15
- 3) 前掲書 1), pp.14-15
- 4) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』教育出版、平成30年、p.18
- 5) 前掲書 1), p.16
- 6) 前掲書 1), p.1
- 7) 前掲書 1), p.95
- 8) 前掲書 1), p.113

参考文献

- ① 坂田哲人、中田正弘、村井尚子、矢野博之、山辺恵理子『リフレクション入門』学文社、2019年
- ② 島恒生『納得と発見のある道徳科-「深い学び」をつくる内容項目のポイント』日本文教出版、2020年
- ③ F・コルトハーヘン[編著]、武田信子[監訳]、今泉友里、鈴木悠太、山辺恵理子[訳]『教師教育学-理論と実践をつなぐリアリステック・アプローチ-』学文社、2010年
- ④ 文部科学省『「道徳教育指導者養成研修(中央指導者研修)第2回」(石田 有記)講義資料』2020年
- ⑤ 文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』平成28年
- ⑥ 文部科学省『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)』平成28年